

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	比較文化論		
英文授業科目名	cross-cultural Study		
開講年度	2007年度	開講年次	3年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	湯川 敬弘		
居室	東1-607		

公開E-Mail	授業関連Webページ

<p>【主題および達成目標】</p> <p>主題・目的・背景：現在盛んに国際化という言葉が唱えられる。その背景には単に外国旅行が簡単になったというだけではなく、日本国内でも日常的に外国人と接触するようになり、いやでも異文化的行動様式との違いを感じ、それへの正しい対応が必要とされていることが大きい要素としてある。しかし、外国文化の理解については、日本人はそのよい面と悪い面とを冷静に判断し、対応することが不得手であった。そのよい例が、明治以来の欧米文化への過度の思いこみ、近隣アジア諸国へのそれまでとうって変わった冷淡化である。ましてや自国文化への関心の低さと理解のないがしろの傾向は学歴の高い人々にさらに深刻に見られる。</p> <p>国際的であるためには、まずそれぞれ国々の価値基準をその源由から理解し、己の文化の価値基準と比較、相対化することから始まる。比較文化論とはそうした視点で自文化と当該外国文化を考察する視点を持つことを目的とする。</p>
--

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>第二外国語</p>

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p> <p>特になし</p>

電気通信大学 平成19年度シラバス

【教科書等】

参考書：司馬遼太郎『この国のかたち』1・2・3（文春文庫）
佐藤欣子『取引の社会』、会田雄次『アーロン収容所』（ともに中公新書）
桑原隲蔵『中国の孝道』（講談社学術文庫）等

【授業内容とその進め方】

演習であるので、講義よりも諸君自身の授業への参画が中心となる。
毎回、授業の内容について全員に議事録を作ってもらい、提出していただく。
国際的であっては何よりも自国の文化について無知であってはならない。従って、諸君に日本についていささかなりとも知識と正しい理解をもってもらうために、『この国のかたち』1・2・3の中から、興味深い節を選び、これについて諸君に予習、発表をしてもらい、議論する。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

議事録が提出されていることが第1。
その内容についての評価が50%。
評価基準は毎回の議論された事項が記録されていること。
その項目についての的確なまとめがしるされていること。
試験 50%
全授業の中で話題になった事柄について、筆記試験をする。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、メールなどで事前にアポイントを取ること。

【学生へのメッセージ】

学問は将来よく生きることができるためにするものです。技術を身につけて生活手段を確保することが第1、物質的な安定を得て、豊かな心の世界を持っていることが大事です。単位のためだけに勉強するものではありません。

【その他】